『きょうは塾に行くふりをして』

越智優・曽我部マコト　作

【　登場人物　】

・高山湊斗　（タカヤマ　ミナト）　演劇部の助っ人。
・丸橋海　（マルハシ　カイ）　出演。大道具
・大原和翔　（オオハラ　カズキ）　出演。大道具
・津田一清　（ツダ　イッセイ）　出演。大道具
・林田いぶき（ハヤシダ　イブキ）　舞台監督。
・千家愛衣　（センケ　アイ）　出演。バミリ。
・森下千影　（モリシタ　チカゲ）　出演。バミリ。小道具
・下仁田る以　（シモニタ　ルイ）　出演。バミリ。小道具
・真木瞳　（マキ　ヒトミ）　助監督

【　ときどき登場する人物　】

・東山由紀子（ヒガシヤマ　ユキコ）　音響
・西河内さくら（ニシカワチ　サクラ）　音響
・北乃山龍之介（キタノヤマ　リュウノスケ）　照明

【　とき・ところ　】

とある地方の公共ホール。高校演劇コンクール（県大会）のリハーサル中の一時間。冬。

#1　きっかけその1　「エンディング」

【緞帳】が上がるが、
【客電】は点いたまま。
舞台上には何もない。
【中割】は全開。舞台奥にはホリゾント。
　舞台袖から、ヒガシヤマ高校演劇部員たちの元気な声が聞こえる。

いぶきの声　上演3、ヒガシヤマ高校演劇部、リハーサルはじめます！　お願いします！
部員たちの声　お願いします！

　ヒガシヤマ高校の演劇部員たち、足早に舞台に登場し、テキパキとリハーサルの準備をはじめる。

　アイ、ルイ、チカゲ、メジャーを持ってバミリをはじめる。
　マルハシ、カズキ、イッセイ、大道具を袖から舞台に運んでくる。台車なども使う。
　最後に舞台監督のいぶき、あわただしく登場。
　以下、部員らは作業しながら必要なことを話したり、いぶきに返事したりもする。

いぶき　……みんな落ちついてね！　打ち合わせ通りやればいいんだからね！　……マルハシ、足元気をつけてね。
カズキ・マルハシ　「おう！」「わかってるよ」
イッセイ　このへんでいい？
マルハシ　おっしゃ行こう、ガンガン行こう！
いぶき　あー、まだまだ！　まだそこ置いといて。とりあえずぜんぶ奥に置いといてー……ルイちゃん、走らない！
ルイ　あっ、すいませんっ！
いぶき　言ったじゃん。落ち着いて、急がなくていいからスムーズに、エレガントに。

ルイ、うなずき、出来るだけエレガントにバミテを貼る。

いぶき　（しばらく見てから）そうそう。……（音響卓に向って）ユキコー、サクラー、準備どう？
ユキコ（音響卓から）だいじょうぶでーす！
サクラ（同）　音出してみていいですかー？
いぶき　お願いしまーす！

【音響】楽し気な音楽。
以下、小音量で流れ続ける。

いぶき　おっ、いいねー。
ユキコ（音響卓から）ボリュームどうですかー。
いぶき　いいと思います！
アイ　センターオッケーでーす。
マルハシ　急げよー。
カズキ　モタモタすんなよー。
アイ　うっせーつーの。
チカゲ　ね、マルハシのくせに。次、上手（かみて）行くよ。
ルイ　はいっ！

バミリ隊、上手をバミリに行く。
【照明】ここまでに、ホリゾントの色を確かめているらしく、色が何度か変化したりする。

いぶき　（照明ブースに）リュウノスケーっ、ホリどうー？
リュウノスケ（照明ブから）すいません、もうちょっと待ってくださーい。
いぶき　一人っきりで大変だけど、がんばってねー。落ち着いてやれば大丈夫だから！
リュウノスケ（照明ブから）がんばります！
いぶき　設置終わったら客電落としてくださーい。
リュウノスケ（照明ブから）了解です！
チカゲ　はい、上手（かみて）もオッケー！
アイ　大道具置いちゃってー！
男子部員たち　「おっしゃ！」など。
アイ　モタモタすんなよー。

マルハシ　うっせ（え）。

以下、バミリ隊、下手へ。男子部員、上手の装置をセットする。

いぶき　いい調子いい調子。みんな焦んなくていいよ。一時間あるんだからね！
みんな　「はーい」など。

いぶき、少し息を吐こうとする、
と、舞台袖からインカムをつけたヒトミが駆けてきて、

ヒトミ　先輩、いぶき先輩！　たいへんです！
いぶき　どうしたヒトミ。
ヒトミ　……ミナト先輩がまだ楽屋から戻ってきません！
いぶき　えー。
ヒトミ　わたし、探しにいって来ましょうか？
いぶき　いや、上履き取りに行っただけだから。……それより、ヒトミ、影アナとか緞帳とか、大丈夫なの？
ヒトミ　そうでした～。
アイ　バミリ終わりましたーっ！
チカゲ　ぜんぶ置いちゃってー。
男子部員たち　「うっす！」など。

以下、バミリ隊と男子部員たち、テキパキと残りの装置を下手にセットする。
ルイ、いぶきの近くへ。

ルイ　せんぱぁい、いぶきせんぱぁい、
いぶき　今度はどうした！
ルイ　わたし、本番でセリフが飛ばない気がしません！
いぶき　今からそんな弱気でどーする。
ルイ　見て下さい。昨日から手のふるえが止まんないんです。
いぶき　……ホントだ。
ルイ　ひひ膝なんか一昨日から笑いっぱなしですし。
いぶき　大丈夫、本番は今じゃなくて明日だよ！　それまでにはきっと治る！
ルイ　……お腹も痛くなってきました……。
チカゲ　ちょっとルイ、設置終わってないよ！
ルイ　あ、すいません！

ルイ、みんなのところへ。
ヒトミが袖から顔を出す。

ヒトミ　先輩！　ミナト先輩が戻ってきました！
いぶき　おお～！（良かった）

ミナト、上履きを手にもって靴下で登場。マスクをしている。

みんな　「おー！」「ミナトくん」など。
マルハシ　（作業しながら）おー、ミナト。あったろー？　緑のリュックん中、（マルハシのシューズを貸したらしい。）
ミナト　（シューズ持ち上げて応える）
イッセイ　良かったあ帰ってきて。
カズキ　当たり前だろ。
アイ　ミナトくん、本番もよろしくねー。

ルイ　お願いしまーす！
ミナト　（以下仏頂面で）これでいいですか？
いぶき　おーけーおーけー。あ、リハーサル中はマスク外して大丈夫だよ。
ミナト　あ、

ミナト、マスクを外し、舞台端に座って上履きを履きながら、

ミナト　泥靴で上がっちゃいけないんですね。
いぶき　ホントごめんね、ミナトくん。急に助っ人なんて頼んだりして。
ヒトミ　すいません。
ミナト　（これが）リハーサル……？
いぶき　そう。
ミナト　大変そうですね。なんか、バタバタして。
いぶき　大会だからねー。なんせ、設置から撤収まできっかり一時間しかないからね。
ミナト　一時間（かあ）……劇は何分ぐらいなんですか？
いぶき　一時間。
ミナト　……足りなくない？　時間。
いぶき　足りないんだよ～。だから、きっかけ合わせって言って、音響、照明のタイミングとか、どうしても本番の舞台でやっとかなきゃいけない所だけを切り取ってやるの……ヒトミ、説明してくれたんだよね？
ヒトミ　はい、しました。
ミナト　されたんだけどよく理解できませんでした。
いぶき　ヒトミぃ～。
ヒトミ　すいません……。

アイ　設置終わりましたー。みんな準備してー。
みんな　はーい。

舞台には劇中劇の登場人物たちが集まる「栗の木神社」が出来た。
部員たち、一度袖に戻り、それぞれ準備して最初のきっかけの位置へ。
以下のセリフの途中で、ゆっくりと【客電】、落ちていく。

いぶき　ホント助かりました。ずーっと探してたんだけど、なかなか休みの日に手伝ってくれる人なんていなくて。おまけにリハはこんな夜遅いし。
ミナト　ここまで遅いとは思いませんでした。
いぶき　ごめんなさい。
ミナト　今日、塾の日でした。
いぶき　げ。それは……。大丈夫なんですか？
ミナト　サボる口実ができました。
いぶき　な、なるほど～。とにかく、お願いしますね！
ミナト　（おっけー）……あ、一応もう一回確認しとくけど、俺、セリフ言ったりしなくていいんだよね、ただ舞台に出て手を振るだけで。
いぶき　そうそう。登場するタイミングはヒトミが合図出すから。ただ出てきて、説明した場所に立って、手を振ってもらえればそれでいいの。
ミナト　わかりました。
ヒトミ　よろしくお願いします！
カズキ　おい、いぶき！　リナ（役に）入れよ！
いぶき　わかってる！
アイ　みんなもうスタンバってるよー。
マルハシ　時間ねえんだぞ、とっとと行こう！　ガンガン行こう！
いぶき　あー、ごめんごめん！
ヒトミ　（ミナトを促して）こっちです。

ヒトミ、ミナト、下手袖へ。
と、舞台袖から顧問の平山先生がいぶきに話しかけたらしい。
いぶき　（舞台袖に）あ、はい、なんでしょう平山先生。大丈夫です。なんとか、わたしたちだけで出来ると思います！　いえいえ、あはは。

以上のセリフ中に、【中割】半分ほどしまり、
【照明】夕方のホリゾントになる。
舞台上よきところに、アイ、チカゲ、ルイ、マルハシ、カズキ、イッセイ。
その中にいぶきも入る。いぶきのみ手に台本を持っている。

いぶき　はい、じゃあ、ミーティング通り、一番大事なラストシーンを最初にやって、それから残りのきっかけだね。きっかけはぜんぶで七つですので、スムーズに進行すれば問題なく時間内に収まるはずです。
みんな　（「はーい」「おっけー」「早く行け早く」など）
いぶき　じゃあ、五〇ページ、栗の木神社に集まったみんなに、キタムラくんの事故の知らせが届くところからです。……（袖に戻りながら）ヒトミ、おっけー？
ヒトミの声　（袖から）おっけーです！

いぶき、袖に退場。

いぶきの声　よーい、（手を叩く）

いぶき、台本を持って走って登場。

いぶき（リナ）　「……ハアハアハアハア……みんな、キタムラくんが、キタムラくんが……！」
アイ（マイ）　「ウソ……でしょ」
マルハシ（マルカワ）　「お、おい、まさか……」
チカゲ（チハル）　「そんな……」
いぶき（リナ）　「一丁目の交差点で、自転車ごとトラックにぶつかったって……」
イッセイ（リュウセイ）　「ウソだ、そんなことあるわけない！　あいつにかぎってそんな！」
カズキ（カズヤ）　「そうだ、冗談だろ！　おい、冗談だって言えよ！」
ルイ（ユイ）　「いやあああっ！」（へたりこむ）

長い間。

いぶき　（手を叩く。音響卓へ）……音楽でませんかー。
チカゲ　ちょっとー。
みんな　（おいおい）
ユキコ（音響卓から）　すいません！
サクラ（同）　操作ミスです。も一回お願いします！
いぶき　落ち着いてね、大丈夫、まだ始まったばっかだからね！
ユキコ・サクラ　はい！
カズキ　（ルイに）ってか、声出てんじゃん。
ルイ　えっ、そうですか！
イッセイ　うん、すっごい出てる。
マルハシ　もっかい行こう！

いぶき、袖へ。

いぶきの声　じゃ、同じところから。よーい、（手を叩く）

いぶき、台本を持って走って登場。

いぶき（リナ）　「……ハアハアハアハア……みんな、キタムラくんが、キタムラくんが……！」
アイ（マイ）　「ウソ……でしょ」
マルハシ（マルカワ）　「お、おい、まさか……」
チカゲ（チハル）　「そんな……」
いぶき（リナ）　「一丁目の交差点で、自転車ごとトラックにぶつかったって……」
イッセイ（リュウセイ）　「ウソだ、そんなことあるわけない！　あいつにかぎってそんな！」
カズキ（カズヤ）　「そうだ、冗談だろ！　おい、冗談だって言えよ！」
ルイ（ユイ）　「（さっきよりデカい声で）いやあああああっ！」（へたりこむ）

【音響】悲しげな音楽。

いぶき（リナ）　（音響卓にグッして）「救急車で運ばれて、いま病院だって、近所のおばさんが……」
カズキ（カズヤ）　「そんな、じゃあ、卒業式は？　卒業式はどうなるんだよ。約束しただろ、俺たち八人、何があっても一緒に卒業しようぜって」
マルハシ（マルカワ）　「そうだ、誓ったじゃねえか、一年の夏、みんなで……この、大きな栗の木の下で！」
ルイ（ユイ）　「キタムラくん、キタムラくん……うわーん」
アイ（マイ）　「こんなのひどいよ、これじゃあ何のためにみんなで協力してカンニングして、キタムラくんを卒業試験に合格させたのか分からないじゃない！」
ルイ（ユイ）　「うわーん、うわーん」
チカゲ（チハル）　「ぜんぶムダだった……ってことか」
イッセイ（リュウセイ）　「そんなムダだなんて！」
ルイ（ユイ）　「うわーんうわーん」
アイ（マイ）　「そうだよ、ムダって言い方はないでしょ」
ルイ（ユイ）　「うわーんうわーん」
いぶき　（手を叩いて）……ルイ、ちょっと、うるさい。
ルイ　あ、すいません。
マルハシ　声、でけえよ。
ルイ　あ、でかかったですか。
アイ　そうだよ、それじゃあ後のセリフ全然聞こえないじゃん。
いぶき　ルイちゃんもうちょっと、加減しようか。きっかけのセリフが聞こえないよ。
ルイ　ホントーにすいません。
いぶき　（急いで）はいじゃあもう一回……えー、音楽に入るちょっと前の、イッセイの「ウソだ、そんなことあるわけない！」から。いいですか？　……はい。（手を叩く）
イッセイ（リュウセイ）　「ウソだ、そんなことあるわけない！　あいつにかぎってそんな！」
カズキ（カズヤ）　「そうだ、冗談だろ！　おい、冗談だって言えよ！」
ルイ（ユイ）　「（探り探り）いやあああ〜」（へたりこむ）

【音響】悲しげな音楽。

いぶき（リナ）　（音響卓にグッして）「救急車で運ばれて、いま病院だって、近所のおばさんが……」
カズキ（カズヤ）　「そんな、じゃあ、卒業式は？　卒業式はどうなるんだよ。約束しただろ、俺たち八人、何があっても一緒に卒業しようぜって」
マルハシ（マルカワ）　「そうだ、誓ったじゃねえか、一年の夏、みんなで……この、大きな栗の木の下で！」
ルイ（ユイ）　「キタムラくん、キタムラくん……うわーん」
アイ（マイ）　「こんなのひどいよ、これじゃあ何のためにみんなで協力してカンニングして、キタムラくんを卒業試験に合格させたのか分からないじゃない！」
チカゲ（チハル）　「ぜんぶムダだった……ってことか」
イッセイ（リュウセイ）　「そんなムダだなんて」
アイ（マイ）　「そうだよ、ムダって言い方はないでしょ」

チカゲ（チハル）、帰り支度をする。

マルハシ（マルカワ）　「お、おい、どこ行くんだよ」
チカゲ（チハル）　「どこって、帰るに決まってるでしょ」
イッセイ（リュウセイ）　「帰るって……」
アイ（マイ）　「ちょっとチハル！　あんた、どういうつもり」
チカゲ（チハル）　「だからわたしは最初からずっと言ってたでしょ？　そんなの友情ごっこやってるだけだって。だいたい、カンニングして無理矢理合格させるなんておかしいよ！」
カズキ（カズヤ）　「てめえ！」
アイ（マイ）　「バカーッ！」

アイ（マイ）、チカゲ（チハル）をがっつりグーで殴る。
【音響】殴る効果音。

みんな　「ああっ！」
チカゲ（チハル）　「ぐへえっ……なにすんのよ！」
アイ（マイ）　「あんた忘れたの？　二年の冬。あんたがサッカー部のマスダくんにフられて一週間泣き続けてたとき、最後までなぐさめてくれたのが誰だったか！　……キタムラだったじゃん！　泣いてるあんたの横に、何も言わずにずっと座ってさ！　腹をすかしたあんたに、何も言わずにそっとアメ玉差し出してさ！　日がくれるまでずっと！　この……」
みんな　「大きな栗の木の下で！」
イッセイ（リュウセイ）　「大きな……」
ルイ（ユイ）　「栗の……」
マルハシ（マルカワ）　「木の……」
チカゲ（チハル）　「……下で。……そっか。そうだったよね」

いぶき（リナ）、栗の木神社に正対して、柏手を打つ。

いぶき（リナ）　「栗の木大明神様！　どうか、キタムラくんの命を助けてください！　お願いします！」

みんな、ハッとして、同じく栗の木大明神に向い、柏手を打ったり、口々にキタムラくんの無事を祈ったりする。
「大明神様！」「栗の木大明神様！」「キタムラくんを助けてください！」「お願いします！」
と、

カズキ（カズヤ）　「あっ！」
みんな　「えっ」
カズキ（カズヤ）　「みんな、あれを見ろ！　あの夕暮れの、地平線の向こう！　ホラ、あそこ！」
みんな　「ええっ」
ルイ（ユイ）　「まさか……」
マルハシ（マルカワ）　「あれは、まさか……」
アイ（マイ）　「こっちに向って走って来る……」
チカゲ　「だんだん大きくなってくる……あれは、」
みんな　「あのシルエットは！」
いぶき　「キタムラくーん！」

【音響】感動的な音楽。
だが、なにも起きない。
ヘンなタイミングで、舞台下手奥からミナトが登場。
自信なさげな歩き方で舞台中央奥まで行き、思い出したように手を振る。

みんな　「キタムラ（くーん）！」

みんな、手を振り、スローモションでキタムラのもとへ駆け出す。
ストップモーション。
【緞帳】いい感じで降り、すぐに開く。
みんな、そのまま舞台にいる。
下手にヒトミが出てきている。

マルハシ　……遅いよ！
ミナト　え？
ヒトミ　すいません！
カズキ　遅い遅い。なんだよあのタイミング。
チカゲ　出て来るのも遅いし、その後真ん中まで行くのもすっごい遅い。
アイ　ちょっと、間が持たないよね。
イッセイ　僕たちどうしたらいいんだろうって感じになるからさ。
ルイ　歩き方もなんかヘンだった。
ヒトミ　すいません！　私のせいです！　私の指示が悪かったから！
いぶき　ちょっとみんな！　ミナトくんは助っ人なんだからさ、そんなのわかんなくて当たり前じゃん？

ちょっと、間。

マルハシ　あ。
イッセイ　あ、そうか、ごめんね。
カズキ　あー悪りぃ。つい、な。
アイ　ピリピリすんだよねー、つい、ね。
ミナト　わかりました。ちゃんとやります。（怒っているのか？）
いぶき　ああ～！　ごめんね、ミナトくん、演劇部のこと、キライにならないでね。
ミナト　いえ。助っ人とは言え、任された仕事ですから、自分なりにがんばります。
みんな　（「おおー」）
アイ　意外といい人だあ。
ルイ　見かけよりいい人。
ミナト　とりあえず、もうちょっと早く出ていけばいいのかな？
いぶき　そうそう……（ミナトを奥にうながし説明する）
カズキ　こういうやつなんだよなー。

イッセイ　だからけっこうモテるんだよな。
カズキ　誰かさんとは大違いだよ。な。（笑って）
マルハシ　……誰かさんって、俺のことか？　あ？（笑って）
チカゲ　あのさ、時間気にしようよ。
いぶき　（時計みて）げっ、もう十分以上経ってる！
ヒトミ　ラストもう一回やっときますか。
いぶき　うーん……後はミナトくんのタイミングだけだから、最悪あしたの朝どっかで合わせることにして、先にほかのとこやって、時間があまったらラストだけもう一回やってみようか。
ヒトミ　わかりました。
いぶき　ごめんねミナトくん！
ミナト　いいえ。

#2　きっかけその2　「オープニング」

いぶき　（台本見て）じゃー次、オープニング。影アナから行きます。ヒトミ、影アナの練習はバッチリだよね！
ヒトミ　はいっ！　昨日夜中まで一人で練習しました！
いぶき　（グッ）

ヒトミ、下手袖へ。

いぶき　他の人はオープニングの位置にスタンバッてくださーい。ヒトミ、緞帳おろしてー。
ヒトミの声　緞帳おりまーす！

などと言いながらいぶきたち、下手袖へ。

アイ　（行く途中で）あのさあ、（マルハシに、さっき座っていたボックスを示し）これ、ちょっとガタガタするんだけど。
マルハシ　あーそれな。
イッセイ　ちょっと安定悪いんだよね。
マルハシ　本番は取りかえるか。
イッセイ　だね。

などと言いながらアイたちも去る。カズキのみ上手のボックスに座っている。

【緞帳】下りる。
緞帳のむこうから、いぶきの声。

いぶきの声　いいですかー？　じゃあ影アナから。よーい、（手を叩く）

ヒトミの声【影アナ】　「ただいまより、ヒガシヤマ高校演劇部によります、林田いぶき：作　『大きな栗の木の下で』を上演いたします。……良かったちゃんと言えたぁ」

【緞帳】上がる
【照明】青空のホリゾント。
【音響】鳥の鳴き声。ちょっとボリュームが大きい。
上手ボックスにカズキ（カズヤ）、なんかかっこつけた感じで人を待っている。
いぶき、下手袖ぎりぎりで、台本を持って見守っている。

カズキ（カズヤ）　「（立ち上がり）おっせーなあいつら。ったくいつまで待たせんだよ」
いぶき　（カズキを制止して、音響卓に）ユキコ、鳥の声２レベル下げてー。
　鳥の声、ほどよい大きさに。
いぶき　リナの登場までにフェイド・アウトね。
　いぶき、カズキに再開のキューを出し、袖へ。
カズキ（カズヤ）　……「おっせーなあいつら。ったくいつまで待たせんだよ。お、来た来た」
　下手より、マルハシ（マルカワ）、アイ（マイ）、ルイ（ユイ）
アイ（マイ）　「あ、いたいた、カズヤ！」
マルハシ（マルカワ）　「なんなんだよ、急に呼び出したりして」
ルイ（ユイ）　「そうだよー、せっかくの日曜日なのにぃ」
カズキ（カズヤ）　「おせーよおめえら、十二時ちょうどに来いって言ったろ」
アイ（マイ）　「そんなこと言われたってさあ」
マルハシ（マルカワ）　「なんでちょうど昼メシどきに呼び出すんだよ」
ルイ（ユイ）　「そうそう」
　チカゲ（チハル）、イッセイ（リュウセイ）、続いて登場。
チカゲ（チハル）　「結局またカズヤのわがままでしょ？　いい加減にしてよね毎回毎回」
イッセイ（リュウセイ）　「そうなんだよね。ほんとは僕も気が進まないんだけど……」
いぶき（リナ）、ドタドタと走ってくる。
いぶき（リナ）　「……ごめんみんな！　ちこくちこく～」
カズキ（カズヤ）　「おっせーよリナ！」
チカゲ（チハル）　「ホント時間通りに来たためしがないんだよねーリナは」
アイ（マイ）　「いっつも待たされる身にもなってよね」
いぶき（リナ）　「ごめんごめん！　家でお昼ごはんに揚げパン食べてたらすっかり遅くなっちゃって！」
ルイ（ユイ）　「もう、いやしん坊だなあ、リナは」
いぶき　（小声で）食いしん坊。
ルイ（ユイ）　「食いしん坊だなあ、リナは」
カズキ（カズヤ）　「えー、今日みんなに集まってもらったのはほかでもない。キタムラのことなんだ」
アイ（マイ）　「キタムラの？」
マルハシ（マルカワ）　「あいつが、どうかしたのかよ？」
チカゲ（チハル）　「それなんだけどね、カズヤ、私はやっぱり、協力できないかな」
イッセイ（リュウセイ）　「あの、実は、僕も……」
アイ（マイ）　「えっ？」
マルハシ（マルカワ）　「おい、チハル、リュウセイ、お前ら、なんか知ってんのかよ」

ルイ（ユイ）　「え、二人だけ？　なんかあやしーい！」
チカゲ（チハル）　「バッカ、そんなんじゃないわよ」
カズキ（カズヤ）　「いや、二人には先に電話でちょっと話したんだけど、まあ、あらためて聞いてくれ。みんなも知っての通り、キタムラは一年のときも二年の時も赤点続きで、進級がヤバかった」
アイ（マイ）　「そうだったねー」
ルイ（ユイ）　「勉強手伝うの、大変だった」
カズキ（カズヤ）　「俺たちの必死の努力と、先生のお情けでなんとか三年にはなれたが、今度の卒業試験はさすがに万策尽きたというか、普通の方法では合格はまず無理だろう」
アイ（マイ）　「えっそうなんだ？　じゃあ、キタムラは卒業できないっていうの？」
ルイ（ユイ）　「そんなあ、キタムラくんかわいそう！」
マルハシ（マルカワ）　「なんとかなんねえのかよカズヤ、俺たち友だちだろ？」
カズキ（カズヤ）　「まあ落ち着けマルカワ。俺は「普通の方法では」無理だっていったんだぜ？」
アイ（マイ）　「普通の……」
みんな　「方法では……」？
マルハシ（マルカワ）　「じゃあ、なんか普通じゃない方法があるってのかよ！」
カズキ（カズヤ）　「ふっふっふ……（カッコよく振り返って）ある！」
みんな　「ええっ！」

【音響】電話の音
【照明】溶暗。
【照明】明るくなると、同じ場所、次の日。
カズキ（カズヤ）が電話でキタムラと話している。

カズキ（カズヤ）　「おーキタムラ、俺だ俺だ。やったよ！　みんなばっちりオッケーしてくれたよ！」

いぶき、手をたたく。

いぶき　……オッケーです！
カズキ　よっしゃ！

みんな、両袖から駆け出て来る。（「おっけー」「よっしゃよっしゃ」など）

ヒトミ　オープニングはこれで大丈夫ですか？
いぶき　大丈夫でしょう！　（照明ブースに）リュウノスケ、タイミングばっちりだよ！
ルイ　今度は一発オッケーですね！
カズキ　ま、俺にまかせりゃざっとこんなもんよ。もうちょっと、こう……（振り向き方にこだわりがあるらしい）
イッセイ　調子にのってるなあ。
チカゲ　（ボソリと）「ちこくちこく～」か。
アイ　いいじゃん、この調子この調子！
マルハシ　よし行こう、どんどんやろう！
いぶき　えーっと次は……あれだね、十七ページ。栗の木神社のシーンが終わって、最初の学校のシーン。みんな、教室のセットに置き換えて！
みんな　「はーい」
いぶき　音響は、チャイムから。
ヒトミ　（インカムに）チャイムからでーす。（と言いながら袖に去る）

部員たち、神社のセットを教室のセットに組み替え始める。
教室のセットは、ホワイトボックスを机に見立て、長方形に並べたもの。
と、袖からミナトが出てきて、みんなの様子を眺めていた。

いぶき　あ、ごめんねミナトくん、ほったらかしにしちゃって！
ミナト　おかまいなく。
いぶき　ミナトくんの出番は最後らへんまでないから、しばらくロビーとかにいてもらってもいいよ？
ミナト　ハヤシダさん、
いぶき　え？
ミナト　これ、ハヤシダさんが書いたんですね。台本。
いぶき　……。
ミナト　台本。ハヤシダさんが書いたんでしょ？
いぶき　……（驚愕）なんで知ってるんですか⁉
ミナト　いや、さっき言ってたから。放送で。
いぶき　あー。
ミナト　うん。
いぶき　……ごめんなさい。
ミナト　別にあやまることは。
いぶき　いや、人数とか男女比とか、ぴったりの台本があったら、その方がよかったんですけど。でもそんな都合のいい台本なくて、そいじゃいったいどーするよってなって、結局私が（書くことに）！
ミナト　（あなたは）国語がとてつもなく得意。
いぶき　違う違う、「いぶきなら書けるんじゃない」って、無責任にも言ってくれちゃった子がいたんだよ！　それだけ！　……「書けるよ。最後まで書いてみなよ」って。あ、ちょっとごめんなさい、ヒトミー！

ヒトミが来る。

ヒトミ　はい、なんですか？
いぶき　ユウカから連絡とか、来てないよね？
ヒトミ　……すいません、さっきライン見た時はなんにも。
いぶき　そっか、ならいいんだ。
ヒトミ　すいません。

ヒトミ、去る。

いぶき　（ミナトに気づいて）あー、ホントはもう一人いるんです、部員。でもちょっと事情があって、今日、出られてなくて。
ミナト　え？　それって大変なんじゃないですか。
いぶき　まあ、明日には絶対って、言ってるん（ですけど）、
アイ　いぶき！　ちょっと来て！
いぶき　え？

セットを組み替えていた人たち、手が止まっている。妙な雰囲気。

チカゲ　これ、おかしい。
いぶき　おかしい？　何が？
チカゲ　キョリ。
いぶき　キョリ？
チカゲ　机と机のキョリ、こんな近かったっけ？

いぶき　え？　だってさっきバミったでしょ？
チカゲ　そうだけど……。
マルハシ　でもなんか、置いてみたらヘンなんだよ。
いぶき　ええ？　ちゃんと数字どおりになってる？　ヒトミ？
ヒトミ　（舞台図を取出し）ええ……。

アイ、袖からメジャーを持っきて、測る。

カズキ　（舞台図の数字は）三十三。
アイ　（実際の数字は）三十三。数字は……合ってる。
イッセイ　だったら、合ってるんじゃない？
カズキ　いや、でもなんかあきらかに……。
アイ　なんか、違うよね、感覚的に。
マルハシ　すっげー、違和感がある。
ミナト　大丈夫ですか？
ヒトミ　ええと……。
チカゲ　ちょっとみんな一回座ってみて。
アイ　あっ、そうだね。

ヒトミ、ミナト以外の全員、教室のセットに背筋をのばしてきっちり座る。
かなりみっしりしている。

みんな　……。
いぶき　ごめんミナトくん、どう？　これなんに見える？
ミナト　……マイクロバス？
カズキ　やっぱりおかしい！
イッセイ　言われてみれば、
ルイ　部室で練習してたときと……。
チカゲ　（吐き捨てるように）全っ然違う！
みんな　えーっ？
いぶき　（同時に）なんでぇ？
アイ　（ヒトミに）数字合ってるよね？　合ってるよね？
ヒトミ　あ、合ってます！　舞台図と、舞台とは。
カズキ　だったら合ってるはずだろ？
アイ　えーじゃあなんでこんなことになんの？
イッセイ　やっぱり気のせいじゃあ……。
カズキ　それはない、絶対ない！

みんな、わやわや。

チカゲ　ちょっと待って。……舞台図の数値とったの誰？
ヒトミ　え、それは、
いぶき　舞台図？
チカゲ　そう。そっち（舞台図）とこっち（舞台）は合ってるよね？　それでおかしくなってるんだったら、もともとの数値がおかしいんじゃない？
イッセイ　あー。
マルハシ　なるほど……。
チカゲ　誰？　部室で数値とったの？
ヒトミ　えーっと、それは、あの、
チカゲ　誰？
ルイ　あたしです……。
みんな　……。

チカゲ　ちゃんと書き写した？
ルイ　……はい。
チカゲ　間違いない？
ルイ　……と思うんですけど。
チカゲ　と、思う？
ルイ　……。
チカゲ　ダブルチェックした？
ルイ　……。
いぶき　あのー、
チカゲ　わたし言ったよね、ミーティングの時。大切な数字は自分だけじゃなくて、必ず他にも誰か一人声かけてチェックしてもらって、間違いないかどうか確かめてって。言ったよね？
ルイ　……はい。
チカゲ　確かめた？
カズキ　おい、なにもそこまで責めることないだろーよ。
チカゲ　あんたに聞いてるんじゃないの！
ルイ　……忘れてました。すいませんでした。（深々と頭を下げる）
マルハシ　うーん……。
いぶき　（打ち切ろうと）あのさ、チー、
アイ　ごめんチー、わたしもうっかりしてた！　ごめんねルイ、わたしの方から声かければよかったね。
ルイ　いえ……。
チカゲ　……ルイ、今日ちょっと浮ついてるよ。
カズキ　お前だってけっこーイライラしてんだろ。
マルハシ　おい。（やめとけ）
チカゲ　ちゃんとしようよ。こういう時なんだから。
ルイ　……はい。
いぶき　あのさ！
チカゲ　時間でしょ、わかってるよ！　ハイ、じゃ、この話はこれで終わり！　（いぶきに）どうすんのこのシーン？
いぶき　とりあえずボックスは目分量で置き直そう。んでそれバミッて、測って。元の数値がわかんないなら、もうそうするしかないよ！
アイ　明日だもんね……。
マルハシ　……それしかないだろな！
イッセイ　よし、そうしよう！

#3　きっかけその3　「休み時間」

みんな、急いで教室のセットをつくり直す。バミリ隊はバミって測る。
いぶき、袖ぎりぎりに待機。傍にミナト。
「教室」にはマルハシ、イッセイ、チカゲ、アイ、ルイ。
いぶき　いい？　じゃあ授業終了のチャイムから、よーい、（手を叩く）

【音響】チャイム。

マルハシ（マルカワ）　「（伸びをして）おーっし、終わった終わったぁ」
イッセイ（リュウセイ）　「おいおい、まだ二時間目だぞ」
アイ（マイ）　「やっと休み時間かあ」
ルイ（ユイ）　……「（かろうじて）わあい、待ちに待った休み時間だあ」

みんな　……。
マルハシ（マルカワ）　「な、なんか腹減ったな。俺、早弁しようかな」
イッセイ（リュウセイ）　「だからまだ二時間目だって」
アイ（マイ）　「あれ、ユイ、何してんの？」
ルイ（ユイ）　……「えー、大好きなぁ、（※ジャニーズ系芸能人の名前）の下敷きにぃ、無事二時間目が終わったご報告ぅ」
みんな　……。

ミナト　あれでいいんですか？
いぶき　だめなんですけど……。

アイ（マイ）　「あ、ところでみんな、あの話、どうすんの？」
マルハシ（マルカワ）　「あーあの話ねえ」
イッセイ（リュウセイ）　「あの時は、ああ言っちゃたけど……」
チカゲ（チハル）　「正直いって、わたしとリュウセイは乗り気じゃないのよねえ」
ルイ（ユイ）　……「またぁ、チハルちゃんはそんなことばっか言ってぇ」
みんな　……。
イッセイ（リュウセイ）　「だってさ、カンニングって、もし見つかったら大変なことになるんだよ。キタムラだけじゃなくて、僕たちだって卒業できなくなるかも」
アイ（マイ）　「あーまたそういうこと言う」
マルハシ（マルカワ）　「昔から冷たいんだよなーこいつは、自分のことばっかりでさあ」
チカゲ（チハル）　「ちょっと、そういう言い方はないんじゃないの？」
アイ（マイ）　「おやおや、チハルちゃん、やけにリュウセイの肩を持ちますなあ」
チカゲ（チハル）　「バ、バッカ、そんなんじゃないわよ！」
ルイ（ユイ）　……「わー、赤くなってる赤くなってる」
みんな　……。
ルイ（ユイ）　……「やーいやーい」

ミナト　一回、止めた方がいいんじゃないですか。
いぶき　ギリギリの選択が続く……。

ルイ（ユイ）　……「なーんてね。冗談に決まってるじゃーん」

ここでルイ（ユイ）は、チカゲ（チハル）の背中を思いっきり叩かなくてはいけないのだ。

ルイ（ユイ）　……。
チカゲ（チハル）　（小声で）いいよ。……いいから叩きなよ。……もう怒ってないから。……いいから叩きなって！。

ルイ（ユイ）、なんとかチカゲ（チハル）の背中を叩く。

チカゲ（チハル）　「痛っ」
ルイ　ごめんなさいっ！
チカゲ（チハル）　……いや痛くないよ、痛くないけど、（セリフが）「痛っ、もぉう、なにすんのよぉ」
ルイ　（おびえている）
アイ（マイ）　「も、もぉう、二人ともなにふざけてんのよぉ」
イッセイ（リュウセイ）　「もう休み時間、終わっちゃうよ」
マルハシ（マルカワ）　「あーあ、早弁しそこねた」

【音響】チャイム。

いぶき　ハイッ（手を叩く）　……ぜんぜんオッケーじゃないけどオッケーです！
ヒトミ、いま何分？
ヒトミ　ちょうど三十分です！
みんな　ええーっ。
いぶき　ウソでしょ～。もう半分か！

#4　きっかけその4　「理科実験室大爆発」　および　きっかけその5　「放課後のリナとマルハシ」

ミナト　それってヤバくないですか？！
ヒトミ　かなりヤバいです。
チカゲ　急ごう！
いぶき　えー次は……教室の隣の理科実験室が爆発して、偶然、物理の答案が手に入るシーンだね。
ミナト　……。
いぶき　しょうがないでしょ、こんなことしか思いつかなかったんだから！
ヒトミ　先輩！　ミナト先輩はなにも言ってません！
カズキ　やべーぞ。いぶきのやつ。
マルハシ　だいぶテンパって来てんな。
アイ　キャパ小さいからね、わりと。
いぶき　ごめんなさい。取り乱してしまいました。
ミナト　ちょっと、びっくりしました。
ヒトミ　先輩、ここは爆発音の音響だけだから……。
いぶき　そ、そうだね。（音響卓に）爆発音、お願いします！

【音響】爆発音。

いぶき　オッケーです！
マルハシ　（いぶきに）いいのかそれで！
いぶき　背に腹は代えられないよ！　あとにもっと大事なシーンがあるんだから！
イッセイ　みんな、早く教室を爆発させよう！
アイ　わかった！
マルハシ　よし！

みんな、急いで教室を爆発後の状態にする。（ホワイトッボックスが散乱した状態）

チカゲ「バミリないと場所わかんないよ！」
カズキ「もうしょうがねえだろうこうなったら！」
マルハシ「とにかく急ごう！」
ミナト「手伝いましょう。」

ミナトも手伝おうとするが、間違ったことをする。

ヒトミ「ミナト先輩！　遠いです！」
マルハシ「爆発しすぎ！」
チカゲ「ここもバミるよ！」など

いぶき　でー……修復工事が終わったあとの、リナとマルハシのシーン！

イッセイ　ごめんみんな、元に戻して！
マルハシ　おいお前いい加減にしろよ！
イッセイ　しょうがないだろ、僕だって精一杯やってるんだから！
アイ　ケンカすんなって！

みんな、あわてて元に戻す。
ミナト、また間違ったことをする。
みんな、「違う違う！」など。

チカゲ　しんどぉ……。
カズキ　ホラ、戻したぞ！
アイ　次は？
いぶき　二十九ページ。雨の放課後、リナとマルハシの対話シーンです！　音響、照明両方お願いします！
ヒトミ　（インカムに）放課後のシーンです。
カズキ　放課後の……。このまま行くのか？　リナは（まだ来ないのかよ）！

みんな、一瞬止まりかける。

いぶき　（私が）入りまーす！

マルハシをのぞくみんな、退場せず、袖付近に待機して見守る。

マルハシ　よっしゃー、俺が一発で決めてやるぜ！
アイ　頼むよー。
ルイ　先輩がんばってください！
いぶき　よーい、（手を叩く）

【照明】やや暗くなる。

マルハシ（マルカワ）　「俺はもうダメだーっ！（頭を抱えてうずくまる）」

【音響】雨の音。

いぶき（リナ）　「……ハアハアハア、どうしたのマルカワ！　第二教棟まで聞こえるでっかい声だして！」
マルハシ（マルカワ）　「（気づいて）リナか。どうせ、どうせ俺なんか、なにやったってダメなんだ！」
いぶき（リナ）　「だからどうしてよ？」
マルハシ（マルカワ）　「だってよー、俺、勉強できねえからチハルやリュウセイみたいにカンペもつくれねーし、カズヤみたいにリーダーになれるわけでもねえし、マイはいっつも俺のこと虫ケラを見るような目で見るし、理科室から答案盗もうとしたら間違って教室ごと爆発させちまうし……はあ、なんでなにやってもダメなのかなあ、俺って」
いぶき（リナ）　「うーん（考え込む）」
マルハシ（マルカワ）　「いや、否定しろよ、そこは」
いぶき（リナ）　「あ。ごめん」
マルハシ（マルカワ）　「そこは否定するとこだろ」

いぶき（リナ）笑っている。雨の音。

いぶき（リナ）　「（笑い残って）マルカワさぁ……こっそり小説書いてるよね」

マルハシ（マルカワ）　「……（驚愕して）なんで知ってんの？」
いぶき（リナ）　「こないだカバンの中身落としたときチラっと見えちゃった」
マルハシ（マルカワ）　「えー。いやいやそんな書いたなんて大げさなもんじゃなくて。ホラ、俺文芸部だから、秋の作品展に出さなきゃなんなくてしょうがなくだよ、しょうがなく」
いぶき（リナ）　「いいよ照れなくて」
マルハシ（マルカワ）　「……すまん」
いぶき（リナ）　「別にあやまることは」
マルハシ（マルカワ）　「……いやー。でも俺才能ねーんだよなー」
いぶき（リナ）　「いいよ才能なんかなくて」
マルハシ（マルカワ）　「だからそこを否定しろ、っつうんだよ」
いぶき（リナ）　「（笑って）……いいじゃん。一生懸命やればそれで」
マルハシ（マルカワ）　「……」
いぶき（リナ）　「書けるよ。最後まで、『最後まで書いてみなよ』」

と、窓の外で稲光。【照明】短く点滅する。
いぶき、マルハシ、ハッとして窓の外を見る。

【音響】落雷の音。

それは何かの不吉な予兆のようだ。
いぶき、凍り付いたように窓の外（前）を見つめる。
いぶき、次のセリフが出ない。
マルハシ、いぶきの方を見る。

マルハシ　いぶき？
チガゲ　（袖近くで）おかしいよ。
ヒトミ　……先輩。「このままなにも」！
アイ　いぶき！
いぶき（リナ）「このままなにも」！　「このままなにも起きなければいいのにね」
マルハシ（マルカワ）　「え？　なんだよそれ」
いぶき（リナ）　「友達も、家族も、みんな元気で、毎日変わりなく暮らしてる。私、いま、それだけでけっこう幸せなんだ」
マルハシ（マルカワ）　「なんだそれ年寄くせえなー。なんか、夢とかねえのかよ」
いぶき（リナ）　「だからあるじゃん。今日元気だったみんなが、明日も元気だったらいい。それが私の夢」
マルハシ（マルカワ）　「それ夢っていうかあ？」

二人、笑う。

#5　きっかけその6と7　「大乱闘」

ヒトミ　……はい！（手を叩く）

【照明】元の明るさに戻る。ホリゾントも青空に戻る。

いぶき　ごめん私ボーっとしちゃって！
アイ　オッケーオッケー！（気にすんな！）
カズキ　マルハシお前やるじゃねえか！
マルハシ　だから言ったろ！

ミナト　もしかして、今のは恋愛シーンですか？
いぶき　あ、わかりました？
ミナト　わからなかったので質問しました。
いぶき　（がっくり）
アイ　実は、「『マルカワ』が『リナ』のこと好き設定」だよね。
マルハシ　やめろよ、なんか照れるじゃんか、なんかさ！
いぶき　（明るく）私がやると恋愛シーンに見えないんだよね。
チカゲ　このまま行こう！
マルハシ　どんどん行こう！
カズキ　時間ねえぞ！
いぶき　……ああ、そうだね！　えーっと次は……。
ヒトミ　（台本示して）先輩、ここです！
いぶき　……ついにここまで来たか～！　三十六ページから三十九ページにかけて、教室での乱闘シーン！
みんな　「おおーっ」
いぶき　この間にきっかけが二つあります。音響は一カ所だけだけど、問題はアクションです。実際の舞台でできるのは今日だけだから、しっかり練習しとこう！
みんな　（「おー！」）
カズキ　よっしゃ！
マルハシ　腕が鳴るぜ！
いぶき　えー、まず最初軽く動きをおさらいしといて、その後一回、本気でやってみます。
ルイ　わかりました。
イッセイ　緊張するなあ。
アイ　急ごう！

みんな、「教室」内の配置につく。
以下、いぶきの指示通り、実際に動きを確認していく。

いぶき　えー、音楽入って、マルハシたちとの言い合いあって、「てめえ、友達を裏切るってのか」でカズキが、イッセイにつめよります。
カズキ　おう。

カズキ、イッセイに詰め寄るフリ。

いぶき　で、胸倉をつかむ。

カズキ、イッセイの胸倉をつかむ。

いぶき　んで、みんな駆け寄る……それぞれ動いて……。

教室内でイッセイ（リュウセイ）とカズキ（カズヤ）を中心に争う。
みんな、自分の動きを確認する。いぶきは適宜ガイドを入れる。

いぶき　んで最終的に、「僕のことはほっといて」で、イッセイがカズキを突き飛ばします。
イッセイ　どーん。
カズキ　うわー。

イッセイ、カズキを突き飛ばすフリ。

いぶき　よろめいたカズキが、机にアタマをぶつけます。ホントにぶつけないように

気をつけてね。
カズキ　わかってるよ。

　カズキ、倒れて机にぶつかるフリ。

いぶき　「カズヤー！」のセリフがあって、みんな駆け寄る……んで、チカゲがマルハシとアイを押しのけて……。

　チカゲ、マルハシとアイを押しのける。

チカゲ　どーん。
マルハシ　わあー。
チカゲ　どーん。
アイ　きゃあー。

いぶき　で、イッセイをビンタします。

チカゲ、イッセイにビンタのフリ。

チカゲ　ぱーん！　本番はマジだよね。
いぶき　マジビンタです。
イッセイ　勘弁してよー。
いぶき　マジでお願いします。んでカズキ目が覚めて、立ち上がる、もう一回イッセイのところへ行こうとすると、ルイが……
ルイ　（まだ動揺が残っているのである）
いぶき　ルイ。
ルイ　あ、すいません。

　ルイ、所定の位置に。

いぶき　ルイがここ、と。みんな、オッケー？
みんな　（「オッケーでーす」「いけるぜ！」）
チカゲ　あと何分？
ヒトミ　えーっと、あと、
ミナト　二十分ちょっとです。
いぶき　なんとかいけるはず！　……位置についてー、三十六ページ、音響から、よーい、（手を叩く）

【音響】戦いの音楽。
　教室にカズキ（カズヤ）たち。
　舞台袖ぎりぎりに、いぶきとミナト。

マルハシ（マルカワ）　「……リュウセイ、お前なんてこと言うんだ。もう一回言ってみろよ」
アイ（マイ）　「そうだよ、そんな言い方ってないよ！」
ルイ（ユイ）　「そうよそうよ」
イッセイ（リュウセイ）　「うるさい！　僕だって、抜けたくて抜けるわけじゃないよ！」
チカゲ（チハル）　「だったらどうして！」
イッセイ（リュウセイ）　「言っただろ。うちは父さんが医者だって。爺ちゃんも医者だって。ひい爺ちゃんも、ひいひい爺ちゃんも医者で、永遠に医者の家系だって。だから僕も将来は医者にならなきゃいけないんだ！　もしカンニングが見つかった

りなんかしたら、僕の将来はメチャクチャだ！　父さんや母さんに、とても顔向けできないよ！」
アイ（マイ）　「だからって……」
カズキ（カズヤ）　「てめえ、だからって友達を裏切るってのか！」

カズキ（カズヤ）、イッセイ（リュウセイ）につめより、胸倉をつかむ。

チカゲ（チハル）　「カズヤ！」
アイ（マイ）　「やめてよカズヤ！」
マルハシ（マルカワ）　「そうだやめろカズヤ！」
イッセイ(リュウセイ)　「放してくれ！　もう僕は関わり合いになりたくないんだ！」
カズキ（カズヤ）　「待てよリュウセイ！　おい、待てって言ってるだろ！」
チカゲ（チハル）「リュウセイ！　リュウセイー！」

みんな、揉みあう。

いぶき　気をつけてね！　ちゃんとまわり見てねー！

イッセイ(リュウセイ)　「ええい、放してくれ！　もう僕のことは放っといてくれ！」

イッセイ（リュウセイ）、カズキ（カズヤ）を突き飛ばす。

カズキ（カズヤ）　「うわっ！」
みんな　「ああっ」

カズキ（カズヤ）、机にアタマをぶつけて気絶する

みんな　「……カズヤ（くん）！」

みんな、カズキ（カズヤ）にかけよる。

いぶき　オッケーいいよー！
ミナト　迫力あるなあ！
いぶき　でしょ！

イッセイ（リュウセイ）　「あ……あ……」
マルハシ（マルカワ）　「カズヤ、大丈夫か、カズヤ」
アイ（マイ）　「しっかりしてカズヤ！」
ルイ（ユイ）　「カズヤくん！」

いぶき　マルハシ前向いてねー。前よー。

マルハシ（マルカワ）　「（前に出て）ちくしょう……なんでだよ、俺たち友達だっただろ？　なのになんで、なんでこんなことになっちまうんだよ～！」

いぶき　いいよー。ちょっとクサいけどいいよー。

アイ（マイ）　「そうだよ、こんなのひどいよ！　みんな忘れたの？　一年の夏、誓ったじゃない、あの、」
チカゲ（チハル）　「どいてっ！」

チカゲ（チハル）、マルハシ（マルカワ）とアイ（マイ）を押しのける。

マルハシ（マルカワ）　「わあっ（倒れる）」
アイ（マイ）　「きゃあっ」

と、突き飛ばされたアイ（マイ）、装置にひっかかり、本当に転倒してしまう。

アイ　あっ！
チカゲ　えっ？

間。

みんな　アイ（先輩！）

みんな、アイに駆け寄る。袖からヒトミも出て来る。

カズキ　おい、大丈夫か？
いぶき　アイ！　大丈夫？
アイ　あー……痛っ……。（かなり痛そうである）
チカゲ　（動揺している）ごめん！　アイ、ごめん！
ルイ　先輩！
ヒトミ　大丈夫ですか？
いぶき　ケガは……（袖の先生に）先生、
アイ　（明るく）だいじょぶでーす！
チカゲ　アイ！
アイ　いや、マジでマジで、ちょっと、くじいただけだから。
マルハシ　（袖に呼びに行っていたが戻って来て）おい先生、いねえぞ。
イッセイ　（遅れて戻って来てマルハシに）外で運送業者さんと話してるって。呼ばれて。
アイ　（マルハシたちに）全然いいよ！
チカゲ　アイ、ごめん。あたし、
アイ　だからいーってことよ！
マルハシ　悪りぃ、これ、ちょっとガタガタしてたんだ。ホント悪りぃ。
イッセイ　ごめんね！
ミナト　（やはり仏頂面で）あの、医務室かどっか行きますか？
アイ　ううん、いい。ありがと。ホントに、ちょっとヒネっただけだから。しばらくこうしてれば治るよ。それよりとにかくラストまでやろう。
チカゲ　（痛恨の思いである）
いぶき　それはそうだけど……。
アイ　（思いついて）あ、声は出せるから、わたし端からセリフだけ入れるよ。みんなは本番通り動いて。
イッセイ　でも、揉みあうところ、かなり複雑だよ。一人抜けたら動きがズレちゃうっていうか。
マルハシ　まあ、やりにくいっちゃあ、やりにくいよなあ。
いぶき　でもしょうがないよ、それでやるしか。今日はアイ抜きでやろう。……練習してきたんだから、大丈夫だよきっと！
マルハシ　……もうそれ以外やりようないもんな！（壊れたボックスを袖へ。）
イッセイ　そうだね！
カズキ　おう！
アイ　（立ち上がろうとするアイにヒトミが肩を貸す）チー、悪いと思うんなら元気だしてくれー！。そして、おまえは悪くないぞー！
チカゲ　ごめん！
イッセイ　ルイちゃん、泣いてる場合じゃないよ。

ルイ　すいません。
ヒトミ　残り十五分です！
いぶき　再開します！　みんな位置について。

みんな、所定の位置に行こうとする。

ミナト　あの、ハヤシダさん、ちょっといいですか？
いぶき　はい？
ミナト　いちおう確認しときたいんですけど、ちょっといいですか？
いぶき　……ごめんミナトくん、今じゃなきゃダメかな？
ミナト　ええ。僕、今日、最後の場面に出るだけでいいんですよね？
いぶき　うん。
ミナト　喋らなくていいんですよね。
いぶき　うん、そうだけど、
チカゲ　ミナトくん？
イッセイ　え、なに？
ミナト　動くだけで。舞台に出て、動くだけでいいんですよね。
いぶき　うん、そうだけどごめんなさい、今ちょっととり込んでるんで。
ミナト　舞台に出て、動くだけなら。
マルハシ　悪りぃミナト、ちょっと後にしてくれよ、っていうかそんぐらいわかんだろ、この状況見れば！
ミナト　舞台に出て……動くだけなら！
マルハシ　あ？
みんな　……「あーっ！」とか「えーっ！」とか。
いぶき　マジでぇ！
アイ　ミナトくん！
ルイ　ミナト先輩！
カズキ　ちょっとお前本気か？
ミナト　もし、僕でお役に立てるなら！
チカゲ　えーっと、
イッセイ　でも、出来るの？
ミナト　わかりませんが、いま一応ひととおりは見てました。
イッセイ　だからって、
ミナト　俺、今日このままじゃ帰れません！
みんな　おおー。
ミナト　俺、今日まだなんにもやってません！
いぶき　ミナトくん……。
ミナト　どっちかっていうと邪魔してた気がする！
いぶき　それはそうだけど……。
ヒトミ　（それは言っちゃダメ！）
ミナト　時間がありません……ハヤシダさん、ご決断を！
いぶき　ミナトくん……お願いします！
ミナト　はい。
みんな　「おおーっ！」

#6　きっかけその6と7　「大乱闘」続き。

みんな、所定の位置へ。
ヒトミはアイを舞台端に座らせ、袖へ。

いぶき　（急いで台本をめくり）おっしゃ、じゃもっかい三十六ページ、音響から！
（手を叩く）

【音響】戦いの音楽

マルハシ（マルカワ）　いくぜー。「……リュウセイ、お前なんてこと言うんだ。もう一回言ってみろよ」

以下、（マイ）にはミナトが入り、口パクで演技する。そこにアイがセリフを入れる。

ミナト（マイ）　「そうだよ、そんな言い方ってないよ！」

いぶき　……ミナトくん！
カズキ　ミナトお前やるじゃねえか！

ミナト（マイ）　「そんな言い方ってないよ！」
ルイ（ユイ）　あっ、「そうよそうよ」！
イッセイ（リュウセイ）　「うるさい！　僕だって、抜けたくて抜けるわけじゃないよ！」
チカゲ（チハル）　「だったらどうして！」

いぶき　ごめんみんな、もうちょっとスピードアップして！

イッセイ（リュウセイ）　「（早口で）言っただろ。うちは父さんが医者だって。爺ちゃんも医者だって。ひい爺ちゃんも、ひいひい爺ちゃんも医者で、永遠に医者の家系だって。だから僕も将来は医者にならなきゃいけないんだ！　もしカンニングが見つかったりなんかしたら、僕の将来はメチャクチャだ！　父さんや母さんに、とても顔向けできないよ！」

以下、みんなも早口で。

ミナト（マイ）　「だからって……」
カズキ（カズヤ）　「てめえ、だからって友達を裏切るってのか！」

カズキ（カズヤ）、イッセイ（リュウセイ）につめより、胸倉をつかむ。

チカゲ（チハル）　「カズヤ！」
ミナト（マイ）　「やめてよカズヤ！」
マルハシ（マルカワ）　「そうだやめろカズヤ！」
イッセイ（リュウセイ）　「放してくれ！　もう僕は関わり合いになりたくないんだ！」
カズキ（カズヤ）　「待てよリュウセイ！　おい、待てって言ってるだろ！」
チカゲ（チハル）「リュウセイ！　リュウセイー！」

このあたりから通常のスピードに戻る。
みんな、揉みあう。

いぶき　いいよ！　ミナトくんいいよ！

イッセイ（リュウセイ）　「ええい、放してくれ！　もう僕のことは放っといてくれ！」

イッセイ（リュウセイ）、カズキ（カズヤ）を突き飛ばす。

カズキ（カズヤ）　「わあっ」
みんな　「ああっ」

カズキ（カズヤ）、机にアタマをぶつけて気絶する。

カズキ（カズヤ）　「うわっ！」
みんな　「カズヤ（くん）！」

みんな、カズキ（カズヤ）にかけよる。

イッセイ（リュウセイ）　「あ……あ……」
マルハシ（マルカワ）　「カズヤ、大丈夫か、カズヤ」
ミナト（マイ）　「しっかりしてカズヤ！」

いぶき　マルハシ抑え気味にねー。演技は抑制が大事よー。

マルハシ（マルカワ）　「（いつもどおりに）ちくしょう……なんでだよ、俺たち友達だっただろ？　なんで、なんでこんなことになっちまうんだよ～！」
ミナト（マイ）　「そうだよ、こんなのひどいよ！　みんな忘れたの？　一年の夏、誓ったじゃない、あの、」
チカゲ（チハル）　「どいてっ！」

チカゲ（チハル）、ミナト（マイ）とマルハシ（マルカワ）を押しのけて、

マルハシ（マルカワ）　「わあっ（倒れる）」
ミナト（マイ）　「きゃああっ（倒れる）」
みんな　（大丈夫か！）

ミナト（マイ）、うまく倒れる。（スローモーション）

みんな　ふう～。

チカゲ（チハル）、イッセイ（リュウセイ）に近づき、ビンタ。

ミナト（マイ）　「えっ……」
ルイ（ユイ）　「チハル……ちゃん」
チカゲ（チハル）　「あたしの……あたしのカズヤになにすんのよ！」
みんな　「……えーっ！」
ミナト（マイ）　「チハル、あんた、カズヤのこと……」

と、気絶していたカズキ（カズヤ）が目を覚ます。

カズキ（カズヤ）　「う、うーん……」
みんな　「カズヤ！」

みんな、再度カズキ（カズヤ）に駆け寄る。

ミナト（マイ）　「カズヤ、あんた大丈夫なの？」
カズキ（カズヤ）　「ああ、たいしたことはねえよイテテテ」
ルイ（ユイ）　「カズヤくん……」
マルハシ（マルカワ）　「カズヤお前、さっきの話聞いてたのか？」

カズキ（カズヤ）　「さっきの？　……いったいなんのことだよ？」
みんな　「（そっかー）」
チカゲ（チハル）　「なんだ、聞いてなかったの……ばか」
カズキ（カズヤ）　「あ、そうだ、リュウセイてめえ！」

カズキ（カズヤ）、イッセイ（リュウセイ）に再び詰め寄ろうとする、
いぶき　ルイ！

と、ルイ（ユイ）が、イッセイ（リュウセイ）の前に立ちはだかり、両手を広げる。
ルイ（ユイ）　「（か細く）リュウセイに……」
みんな　……。
ルイ（ユイ）　「（か細く）手を出すやつは……」
みんな　……。

ルイ（ユイ）、キッと顔を上げる。
正面にチカゲ（チハル）がいる。
いぶき　ルイちゃん！
ルイ（ユイ）　「（全力で）アタシが相手だあああっ！！」
みんな　（おおー！）

いぶき（リナ）が駆け込んでくる。
いぶき（リナ）　よし！　「……ハアハアハアハア……みんな、ケンカはやめて！」

【照明】暗転。
いぶきの声　オッケーです！（手を叩く）

明るくなる。
みんな、「わーわー」　口々にミナトをほめたたえる。
マルハシ　ミナトお前やるじゃねえか！
アイ　すごいミナトくん！
カズキ　この野郎！　隠し持ってやがったな！
ミナト　いやあ。
ルイ　すごい、一回見ただけで。
ミナト　（仏頂面で）魂込めました！
チカゲ　見てないとこもやってなかった？
ミナト　（仏頂面で）なんか、流れで。
イッセイ　おおー。
チカゲ　部活入ってないんだよね？　入ってないんだよね？
ミナト　いやあ。

いぶき、少し離れて深いため息。
いぶき　なんとか乗り切ったぁ……。
マルハシ　しかし、やっぱり来なかったな、ユウカ。
カズキ　え？　……ああ。

マルハシ　（明るく）明日ぶっつけ本番かあ。大丈夫かなあいつ？
イッセイ　これから来たりして。
マルハシ　「ちこくちこく～」って？
カズキ　（笑って）おせえっつうの。
いぶき　（時計見て）……あと十分。じゃーみんな、予定どおり、ラストもう一回だけやって撤収しましょう。これが本当のラストです！
みんな　「おーし」
マルハシ　一時はどうなることかと思ったよ。
イッセイ　この調子で行こう！
いぶき　（袖に）ヒトミ、いーい？　あれ？　ヒトミー！

いぶき、ヒトミが出てこないので袖へ、
近づくと、別の袖からヒトミ登場。以下、場転を手伝いながら。

ヒトミ　（すれ違いざま）はーい。
いぶき　良かったねえ、なんとかなって！
ヒトミ　あ、はい。ミナト先輩が。すごかったです。
いぶき　ラストシーンもう一回やって終わりにするよ！（返事がないので）ヒトミ？
ヒトミ　……ハイ、ラストですよね。
いぶき　どうかした？
ヒトミ　何がですか？
いぶき　え、ヒトミもしかして泣いて（る？）
アイ　（二人の様子に気づいて）どうかした？
カズキ　ああ？
ヒトミ　なんでもありませーん。
チカゲ　なに？　またなんかあったの？
マルハシ　ウソだろまた問題発生か！
カズキ　おい時間ないんだぞ！
いぶき　（何かを感じて）ヒトミ、何かあった（の？）
ヒトミ　（思わず）なんでもないって言ってるじゃないですか！
みんな　……。

間。

ヒトミ　ごめんなさい。
ルイ　……ヒトミ、どうしたの？
ヒトミ　……あの、さっき、ライン見たら、ユウカ先輩から連絡来てました。
チカゲ　……え？
マルハシ　ユウカから！
ヒトミ　……はい。
チカゲ　それで？
マルハシ　どうなんだよ？　なんだって？
ヒトミ　明日も、来られないそうです……。

間。

ヒトミ　ごめんなさい、今知らせても意味ないって思ったんで、黙ってようと思ったんですけど、
いぶき　そうだよね、あたしの方こそ、ごめん。
ヒトミ　いえ……。
ミナト　ユウカさんと言うのは、あの（さっき言ってた）……？
いぶき　（うなづく）

マルハシ　（しゃがみこんで）あー！　もうなんだよ！（ユウカが来れないのがショックなのである）
アイ　マルハシ。

重苦しい空気。

ミナト　……お邪魔だったらすいません。
マルハシ　お邪魔だよ！
アイ　マルハシやめなって。
ミナト　ユウカさん……が来られないのはとても残念だとは思いますが、リハーサルはリハーサルでちゃんと終わらせた方がいいんじゃないでしょうか？
マルハシ　言われなくてもわかってるよ。だから部外者はちょっと黙っといてくれよ！
アイ　マルハシいい加減にしなよ。
マルハシ　なにがだよ。
アイ　ガキみたいだって言ってんの。
イッセイ　やめなよ二人とも。（ミナトに）ごめんね。
チカゲ　……（ミナトに）ユウカね、こないだの日曜日にワクチン接種受けたんだよ。
ミナト　はあ。
チカゲ　でも、副反応が強かったみたいで、月曜日、朝起き上がれなくなって、学校休んだの。
ミナト　あー。
チカゲ　よくあることだから、「まさかね」って思ってたんだけど……次の日も、また次の日も、ずっと、それが続いたの。
ミナト　……。
いぶき　それが、昨日の午後、やっと登校できるようになって、部活に来たんだよ。みんな大喜びで練習して帰って。（みんなに）ね？　明日リハがんばろうって。
みんな　……。
ミナト　……ユウカさんが、明日も来られなかったらどうなるんですか？

みんな、喋らない。

ミナト　ここにいる人たちで、上演自体はできるんですよね？
イッセイ　まあ、それは一応……。
マルハシ　（遮って）それは、ちょっとどうだろうな……リナの役は、ホントはユウカだからなー。
アイ　マルハシ！
ミナト　えっ？　でも、
いぶき　代役。わたしは代役で入ってるんです。
ミナト　あ……そうだったんですか。
イッセイ　最悪の場合にそなえて、一応準備だけは。
カズキ　いぶきで行くしかねえだろうな。
アイ　……そうだね。
ルイ　時間、ないんですよね？
チカゲ　（うなずいて、ヒトミに）どこから？
ヒトミ　えーっと……。
マルハシ　やるのかよ。
ヒトミ　最初の音響はもういいから、幕切れ直前の……。
マルハシ　なあ、ホントにやるのか。
カズキ　ああ。
アイ　（呆れて）マルハシ～。
チカゲ　栗の木神社のくだりからでいいよね。

ヒトミ　そうですね。
マルハシ　これでやるんだな？
チカゲ　だからそうだって言ってるでしょ！
マルハシ　……じゃあさ、俺、降りるわ。

間。

カズキ　……はあ？
アイ　マルハシ？　ちょっとあんた何言ってんの？
チカゲ　あのさあマルハシ、いま冗談言ってる時じゃ、
マルハシ　冗談じゃねえよ。
カズキ　あのなあ！
マルハシ　冗談でもねえし、ヤケになってるわけでもねえよ。これでやるんなら、俺は降りる。悪りぃけど
アイ　……ねえマルハシ、あんたがユウカのことショックなのはわかるけどさ、
マルハシ　そんなんじゃねえよ！　……いや、正直言うと、それもあるけど。でもそれだけじゃねーんだよ。……いぶきには悪いけど、それじゃ今まで作って来た芝居じゃないじゃん。
ルイ　え？
マルハシ　だって、昨日今日始めたわけじゃないんだぜ？　何か月練習してきたんだよ俺たち。台本もなんもないとこからさあ、音響から照明からいっこいっこ考えて、大道具や小道具つくって、毎日毎日練習して、やっと作ってきたんだろ。そりゃいぶきでも出来ないことはないと思うよ。書いた本人だから、セリフもほとんど覚えてるし。……でもさあ、それって、俺たちが今までつくってきたもんと違うじゃん。今まで作ってきたもんと、違うもん上演することになるんだぜ？　それでいいのかよ？
ルイ　それは……。
イッセイ　それはそうだけど……。
マルハシ　ホントいうと、ユウカが来られなくなったときからずっと考えてたんだ。黙ってて、すまん。
カズキ　マルハシ……。
チカゲ　……あんなに練習してきたのに？　（怒鳴って）やりたくないんだ！　あんただけの問題じゃないんだよ！
アイ　そうだよマルハシ！　あんた自分がなに言ってるかわかってんの！
マルハシ　（チカゲとアイに）やりたくないわけじゃないよ、俺だって、
チカゲ　だったら！
マルハシ　……でもさあ、なんていうかさあ、
カズキ　（ぽつりと）無様なもんになるかもしれねえもんな。
ルイ　（同時に）カズキ先輩。
イッセイ　（同時に）え？
アイ　カズキ、あんた今なんつった。
カズキ　いや、怒んなって、無様っていうか、（いぶきに）悪りぃ。そんなんじゃねえ、そうじゃねえんだけど、……ホラ、俺、バスケやめてここ入ったじゃんか？　この一年、親から演劇部ってどんなことしてんだ、何が楽しいんだってもうさんざん言われてよ。だって、観たことねえんだから。うちの親。友達も。そりゃそうだよな、なんだかんだ制限ばっかかかってよ。俺が演劇部に入ってから、まともに客入れて芝居打てたことなんか一度もねえんだから！

みんな、黙る。

カズキ　やっと制限緩和だよ。明日、はじめてうちの親が観に来る。なのに、なんでちゃんとした形でできねえんだよ！　ってな。
イッセイ　そんなこと言ったって仕方ないだろ。

カズキ　なにがだよ。
イッセイ　だって、なんでも思いどおりになるわけじゃないだろ。
カズキ　なんか思いどおりになったことがあんのかよこの一年！
イッセイ　僕に怒鳴ったって仕方ないだろ。
チカゲ　ああそう、あんたも辞めるってわけ？
カズキ　そんなことは言ってねーだろ。（だが落胆の色は隠せない）
アイ　だったらそんな顔すんなよ！
カズキ　あーもううるせえな！
ルイ　（静かに泣き出す）
マルハシ　すまんみんな。でも、俺はやっぱり……。
アイ　なんで？　なんでこんなことになるの？
ヒトミ　いぶき先輩！

みんな、いぶきの方を見る。

いぶき　……ミナトくん。
ミナト　はい。
いぶき　ごめんね。せっかく来てもらったのに。
ミナト　……いいえ。
みんな　（……えっ）
チカゲ　……いぶき？
ヒトミ　いぶき先輩……。
いぶき　（静かに首を振る）……。
アイ　ウソでしょ……？
いぶき　セリフだって、覚えてるわけじゃない。あの役は、ユウカのつもりで書いたんだし、ユウカがいなかったら、この台本は無かったんだから。……あの時、地区大会が中止になって、県大会もできるかどうかわからないって（言われて）、わたし正直もうこれで引退なのかなって思ったんだ。でもユウカはさ、ユウカだけがさ、できるんじゃね？　って。あたしらいけるんじゃね？　って（笑う）、そしたらホントにここまで来れた。楽しかったな。わたし、今までの人生で一番楽しい三か月だった。
カズキ　いぶき！
いぶき　信じてたんだよ。明日にはユウカ帰って来るって。明日には、ぜんぶ、元通りになるって、信じてたのに……。

いぶき、うずくまってしまう。
長い間。

ミナト　ハヤシダさん、ホントにいいんですか？
いぶき　……。
ミナト　あなただって、結構上手にやってたじゃないですか？
いぶき　（首を横に振る）
ミナト　そうですか。……じゃあ、みなさん、今日は、ありがとうございました。
みんな　（……え？）
ミナト　こういうことになっちゃって、ホント残念です。俺……今日久しぶりに楽しかったです。
チカゲ　……ミナトくん？
ミナト　（劇場を見回し）面白いとこですねえ、ここは。こんな、白い箱が、神社になったり教室になったり、いろんな人が、いろんな別の人になって、ぜんぶ偽物なのに、ぜんぶ本物なんですね。……去年の冬、コロナがバカみたいに流行ったじゃないですか？　俺、ちょうどそのタイミングで部活辞めたんですよ。テニス。もともとなんとなくやってただけだし、そもそも、父さんも母さんも部活なんかやめて勉強に専念しろ、ってずっとうるさかったんで。どうせこの一年、なんにもできねーんなら、

一足先にあきらめて受験生になっちまった方が得だろ、なんて。ちなみに俺、今日、塾に行ってることになってるんですけど……まさか想像もできないでしょうね、父さんも母さんも、俺がこんなとこで、こんなことやってるなんて。……でもね、まっさきにあきらめた俺には、その後なーんにも待ってませんでした。この一年間、俺にはなんにもありませんでした。楽しいことも、つらいことも、なにも。ここは、つらいことばっかりだ。……（ここまでに靴を脱いで、マルハシに）マルハシ、靴、ありがとな。……しかし、なんとかならないんですかねえ神様！

ミナト、「栗の木神社」の鳥居に向い、ぶっきらぼうに柏手を打つ。
なにも起こらない。

ミナト　ねえ！

なにも起こらない。

ミナト　こんなにがんばってんだろ！

もう一度。

ミナト　やっぱニセモンの神様じゃだめか！　ええ？

もう一度。

＃7　ラストシーン。

と、
【照明】ホリゾントが夕暮れに変わる。

ミナト　え？

【照明】地明かりが何度も明滅する。
みんな、ホリゾントやサスや照明ブースを見る。

音響卓から、

サクラ　（静かに）音響、準備できました。
いぶき　え？

みんな、音響卓の方を見る。

ユキコ・サクラ　（力いっぱい）音響、準備できました！！
みんな　……。
ミナト　……らしいですよ。

間。
マルハシ、立ち上がってセットを作りかえ始める。
一人、また一人とそれに続く。
最後にいぶきが立ち上がる。

いぶき　……ラストいきます。五十ページ。栗の木神社のシーン。

みんな　おっしゃー！（等それぞれ声にならない声を上げる）
いぶき　……栗の木神社に集まったみんなに、キタムラくんの事故の知らせが届くところ。時間ありません、場転終わったら立ち位置についてください。
マルハシ　急げよー。
カズキ　モタモタすんなよー。
アイ　うっせーつーの。
チカゲ　ね、マルハシのくせに。
いぶき　ヒトミ、中割のタイミング間違えないでね。
ヒトミ　はいっ！（袖へ）

いぶきの指示が出る前から、みんな、テキパキとセットを作りかえている。

いぶき　いきます。えー……。
アイ　あたしからでいいと思う！
いぶき　足だいじょうぶ？
アイ　バッチこーい！（と根性で立ち上がる）
みんな　「おおー」
アイ　痛あーい！
みんな　「えーっ」
ルイ　アイ先輩が立ってられるあいだに急ぎましょう！
チカゲ　そうだね！
いぶき　ラスト三分です！

ルイ、チカゲ、アイの両肩を支えて所定の位置へ。

いぶき　行きます！　ハイ！（手を叩く）

【音響】悲し気な音楽。

アイ（マイ）　「ちょっとチハル！　あんた、どういうつもり」
チカゲ（チハル）　「だから言ったでしょ？　カンニングして無理矢理合格させるなんておかしいよ！」
カズキ（カズヤ）　「てめえ！」
アイ（マイ）　「バカーッ！」

アイ（マイ）、チカゲ（チハル）をがっつりグーで殴る。
【音響】殴る音。
もう一回殴る。
【音響】殴る音。

みんな　「ああっ！」
チカゲ（チハル）　「ぐへえっ……なにすんのよ！」
アイ（マイ）　「あんた忘れたの？　二年の冬」、

いぶき　スピードアップ！

アイ（マイ）　「（超早口で）二年の冬。あんたがサッカー部のマスダくんにフられて一週間泣き続けてたとき最後までなぐさめてくれたのが誰だったか！　キタムラだったじゃん！　泣いてるあんたの横に何も言わずにずっと座ってさ！　腹をすかしたあんたに、何も言わずにそっとアメ玉差し出してさ！　日がくれるまでずっと！　この……」
みんな　……「（もとのスピードで）大きな栗の木の下で！」

イッセイ（リュウセイ）　「大きな……」
ルイ（ユイ）　「栗の……」
マルハシ（マルカワ）　「木の……」
チカゲ（チハル）　「下で……。そっか。そうだったよね」

いぶき（リナ）、栗の木神社に正対して、柏手を打つ。

いぶき（リナ）　「栗の木大明神様！　どうか、キタムラくんの命を助けてください！　お願いします！」

みんな、同じく栗の木大明神に向い、柏手を打ち、

みんな　「お願いします！」

と、

カズキ（カズヤ）　「……あっ！」
みんな　「えっ」
カズキ（カズヤ）　「みんな、あれを見ろ！　あの夕暮れの、地平線の向こう！　ホラ、あそこ！」
イッセイ（リュウセイ）　「ええっ」
ルイ（ユイ）　「まさか……」
マルハシ（マルカワ）　「あれは、まさか……」
アイ（マイ）　「こっちに向って走って来る……」
チカゲ（チハル）　「だんだん大きくなってくる……あれは、」
みんな　「あのシルエットは！」
いぶき（リナ）　「キタムラくーん！」

【音響】感動的な音楽。
下手袖よりミナトくんのシルエットが、超かっこいいスローモションで走って来る。
それと同時に【中袖】全開。

みんな　「キタムラ（くーん）ー！」
ミナト（キタムラ）　（手を振りながら）「はーい！」

スローモションでキタムラに向って駆けだすみんな。
ストップモーション。

いぶき　撤収！
みんな　はい！

みんなが大あわてで撤収する中、【緞帳】が下りていく。